様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年４月１日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５３１００３
研究課題名（和文）　伝統的な歌唱法を生かした、小・中学校音楽科授業のための
アイヌ歌謡の教材化
研究課題名（英文）　The Use of Ainu Songs as Teaching Materials in Music Class of Elementary and Junior High Schools Applying Traditional Vocalism.
研究代表者
石田　久大（ISHIDA　HISAO）
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：３０１９３３２９

研究成果の概要（和文）：
1930 年代から 1950 年代にかけて録音された、北海道のアイヌ歌謡の録音について、特に伝統的な歌唱法を中心に据えて研究した。引き続いて、旭川市近文地区のアイヌ歌謡に焦点を絞り込み、その中から小中学校の音楽教科の教材となり得る曲を選曲した。その際、近文の古老から直接歌を教わるなどして、選曲については慎重に行われた。本研究の成果物として、小・中学校の音楽教材として用いられるための、解説書付きＤＶＤ「近文のアイヌ舞踊と歌謡を作成した。

研究成果の概要（英文）：
We researched in to traditional vocalize of Ainu Songs in Hokkaido by Recordings, recorded from the 1930th to 1950th and existing tradition. Then we have focused on a Chikabumi in Asahikawa-city, and selected some Songs which may be useful as Teaching Material in Music Class. As the fruit of the research we made a DVD [Ainu Dances and Ainu Songs in Chikabumi] for teaching materials in music class of elementary and junior high school.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
２０１２年度	900,000	270,000	1,170,000
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：アイヌ文化，地域，教材化

１．研究開始当初の背景
北海道の先住民族であるアイヌ民族には、数多くの座り歌や踊り歌が伝えられている。しかし、それらの歌謡本来の美的な価値が、一般の人々にはもちろんのこと、道内のアイヌ民族が多く住んでいる地域の人々の間に

おいてさえも、十分に知られているとは言い難い状況にある。

特にアイヌの人々に対する差別が色濃くあった時期においては、アイヌ文化を教材として扱うことは、相応の慎重さも必要とされたと思われる。

しかしながら、現実には長い歴史と大きな広がりを見せる貴重なアイヌ歌謡・舞踊　あるいはユーカラなどのアイヌ口承文化は、すでにアイヌの人々だけではその保持が危うい状況にまで至っていると言って過言ではない。

このような中にあって、アイヌ文化は北海道のみならず、日本の先住民族の貴重な文化遺産として、誰もがその価値を認識し、自国の文化のひとつとして後生にまで伝えてゆく責任があると思われる。

その大きな役割を担うのが北海道の学校教育であり、児童・生徒達が早い段階からアイヌ文化を自分達の地域文化として体験しておく必要があると思われるのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、地域のアイヌ民族に伝わる伝承音楽を、その伝統的な歌唱法や発声法を意識化に置きながら、小・中学校の音楽教科の教材として開発し、研究の成果物として副読本としてのDVD教材を作成することである。

伝統的な音楽や歌唱法については、中学音楽科新学習指導要領でもうたわれているが、我が国の伝統芸能において、アイヌ歌謡も例外ではなく、また民族音楽（世界音楽）の位置づけからいっても、音楽教科あるいは生活科などで取り上げられることに何ら違和感はない。

本研究の最初の課題は、アイヌ歌謡の伝統的な声とは、どのようなものであったかである。次にDVD教材作成にあたり、おびただしい数の歌の中から、何を教材としてゆくかが二番目の課題となった。特にアイヌ歌謡は地域ごとの差異があり、同一の曲であっても、演奏法地域よって異なっている。

さらに、教材化することは、これらを一般化することが望ましいが、しかしながら実際にそれらを短期間で行うことは不可能であり、逆に一般化することにより、それぞれの伝統を喪失する危険性をもはらんでいる。この点について検討した結果として、地域を絞り込みこれを他地区との比較の上で論ずることを、研究の方向性として進めることとした。

３．研究の方法

平成２２年度には、旭川近文に伝わるアイヌ歌謡を、道立図書館において古い録音から注意深く聴きとり、その特徴について探った。

道立図書館には、1930年代に久保寺逸彦が残した貴重な録音が保管されている。録音で演奏したこれらの古老などがまだアイヌ語を話していた時期のものであり、現代とは明らかに異なる音色と唱法でうたわれている。これらの録音を注意深く分析することにより、アイヌ歌謡の本来的な姿が浮かびかがってくる。また 1950 年代に日本放送協会が作成した録音も、録音地域が多方面にわたっているため、地域による差異が認められやすい。

平成２３年度前半は、引き続き道立図書館での録音聞き取り調査を行なった。また、近文の古老より直接歌を聴き取り、それにまつわる情報を収集した。

具体的には、旭川近文の高名なユーカラの伝承者でありアイヌ歌謡の歌い手であった杉村キナラブックの娘である杉村フサ氏よりアイヌ歌謡を実際に習い、アイヌ歌謡の唱法を実践した。面談は、約１０時間以上に及

び、昭和初期の近文の様子や当時のアイヌ歌謡にまつわる様々な情報を得た。これらは、本研究と直接は関わってこない内容もあるが、今後記録として残す予定である。

さらに、アイヌ歌謡の研究者として第１人の千葉伸彦氏を研究の助言者として加わってもらい、アイヌ歌謡の特徴の一つであるレクテについて、研究を進めた。このことは、特に歌謡の特徴として重要な内容であるため、作成予定の DVD に盛り込むこととした。

２２年度、２３年度に調査した曲のうち、音楽的にあるいは歌詞の内容から学校教育の中で扱うために適切な教材としての考えられる数曲を選び、大学での模擬授業と附属中学校での授業を行った。

１１月には全日音研で札幌大会（全国大会）アイヌ歌謡の教材化をテーマに発表した。３月にはアイヌ文化振興・研究推進機構の研究員である甲地利恵氏を招聘し、北海道のアイヌ歌謡についての講義を行ってもらい、情報交換を行った。

旭川近文のアイヌ歌謡を教材化するための、実質的な研究と作業に取り組むにあたり、附属中学校において音楽担当教員の協力を得ながら実際に授業を行い、最終的な成果とてしての解説書付のＤＶＤを作成した。

４．研究成果

本研究の調査で古いアイヌ歌謡の音質の特徴として明らかになってきたことは、かつてのアイヌ歌謡は、声門閉鎖音が多く使われていることが特徴であることが明らかになってきた。これは、アイヌ語の表記のうえで、アイヌ語でよく用いられる語尾の閉音と大きく関係していると考えられる。この、声門を閉じる閉母音がアイヌ歌謡のレクテという唱法と深く関連している要素と考えられる。

またレクテに関して、例えば千葉氏が研究している阿寒の歌謡の場合には、声門を閉めトレモロ状態で声を出すレクテが頻繁に使われ、そのレクテも大変強い状態のレクテが使われる。その対して、旭川近文（石狩川流域）の歌謡で用いられているレクテは、阿寒ほど強くは演奏されない。また、歌われる音域は阿寒はや高めであるが近文は幾分低めに歌われる。

曲目の形式の面では、近文は座り歌が他の地域に比べて多く残っており、ウコウクも行われている。ウコウクは複数のパートが１拍ないし２拍ずらしながら歌われてゆく演奏法であるが、近文においては保存会の人たちにより何とか継承されている。とはいえ、アイヌの人たちの日常生活はあまり歌われることもなくなり、伝承されている座り歌も数が少なくなっている。この研究を通じ、ウコウクという唱法が我が国の先住民族の音楽の特徴として、伝えていかなければならない貴重な民族音楽の形式であることを改めて確認し、このことを伝えるために DVD のなかで、生徒・教師に理解してもらえるように配慮した。

本研究の成果は､成果物である DVD 教材｢近文のアイヌ舞踊と歌謡｣に集約されているが、これは、小・中学校おいてアイヌ歌謡を教材として取り上げられる場合に、教師の入門書の役割を果たすことが望まれる。

また、指導にあたって参考となる解説書が作成したが、その内容についても、地域性を勘案しながら、アイヌ歌謡の解説とともに、アイヌ語の表記や宗教観などについて記載した。DVD 中では、座り歌「ポン　クト　シントコ」を取り上げたが、DVD を授業中に観ながら、教員と生徒が一緒に歌の練習ができる様に作成された。また、踊り歌についても、鑑賞編では保存会の人たちの踊りを取り上

げ、また実践編では、座り歌と同様に、生徒教師がDVDを活用できるように作成した。

小中学生にも理解できる簡素化した楽譜を作成するとともに、レクテなどの細かな演奏の技法をできる限り忠実に五線譜として残すために、研究者向けの楽譜も作成し、解説書に掲載した。(授業向けは石田、研究者向けは千葉が担当)

また本研究は、本来アイヌ歌謡の北海道内の歌謡のなかから、旭川の歌謡に焦点をあてた研究でありまた教材開発であったが、アイヌの歌と舞踊は不可分な関係にあり、授業の組み立ての際に鑑賞としても活用できるように、旭川近文に伝わる舞踏のいくつかをとりあげそれらをDVDに盛り込んだ。(弓の踊り、挨拶の踊り、トド松の踊り等)

ＤＶＤを使用しての教育的成果については今後の課題となる。

５．主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計２件)

① 石田久大、杉江光、菅野道夫、アイヌ歌謡の特徴と教材化、全日本音楽研究会大学部会会誌、2012年3月、査読無、pp36-42

② 菅野道夫、石田久大、小・中学校音楽家授業のためのアイヌ歌謡の教材化、北海道教育大学紀要　教育科学編、査読無、62巻第１　号、2011年8月、pp217-225

〔学会発表〕(計４件)

① 菅野道夫、石田久大、アイヌ伝承歌謡の教材化―中学校における鑑賞・表現活動に利用できるＤＶＤの制作―、北海道教育大学実践教育学会、2012年11月24日、北海道教育大学旭川校

② 菅野道夫、アイヌ伝承歌謡の教材化の試み、日本教科教育学会全国大会、2012年11月４日、東京学芸大学

③ 石田久大、菅野道夫、杉江光、アイヌ伝承歌謡の教材化の試み、全日本音楽教育研究大会　大学部会、2011年11月17日、札幌市教育文化会館

④ 石田久大、菅野道夫、アイヌ歌謡の特徴と教材化、全国大学音楽教育学会　北海道地区学会、2011年８月７日、札幌市ヤマハホール

〔その他〕(計２件)

① DVD 教材「近文のアイヌ舞踊とアイヌ歌謡」、2013年３月、解説書総頁数15、石田久大、杉江光、菅野道夫、発行　北海道教育大学　芸術・保健体育教育専攻音楽分野　(非売品)

② 科学研究費補助金報告書「伝統的な歌唱法を生かした、小・中学校音楽科授業の為のアイヌ歌謡の教材化」、石田久大、杉江光、菅野道夫、2013年３月、総頁数15、発行　北海道教育大学　芸術・保健体育教育専攻音楽分野

６．研究組織

(1)研究代表者
石田　久大(ISHIDA　HISAO)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：30193329

(2)研究分担者
菅野　道雄(SUGANO　MICHIO)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：10344540

杉江　光(SUGIE　KO)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40271720

(3)連携研究者
なし